

貯 法 : 気密容器・室温保存

使用期限 : 外箱等に表示(3年)

承認番号	22100AMX00909
薬価収載	2009年9月
販売開始	2012年6月

アルドース還元酵素阻害剤

処方せん医薬品

(注意－医師等の処方せんにより使用する)

エパルレスタット錠50mg「タカタ」

※日本薬局方 エパルレスタット錠




EPALRESTAT

【組成・性状】

1. 組成

品名	エパルレスタット錠50mg「タカタ」
成分・分量	1錠中 「日局」エパルレスタット 50mg
添加物	D-マンニトール、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、カルナウバロウ

2. 製剤の性状

品名	エパルレスタット錠50mg「タカタ」		
性状	白色のフィルムコーティング錠		
外形	表面直径	裏面重さ	側面厚さ
	 約6.7mm	 約0.12g	 約3.3mm
識別コード	TTS-275		

【効能・効果】

糖尿病性末梢神経障害に伴う自覚症状(しびれ感、疼痛)、振動覚異常、心拍変動異常の改善

(糖化ヘモグロビンが高値を示す場合)

【用法・用量】

通常、成人にはエパルレスタットとして1回50mg(1錠)を1日3回毎食前に経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

(1) 糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法、経口血糖降下剤、インスリン等の治療を行った上でなお、糖化ヘモグロビンが高値を示す患者に対して適用を考慮する。

※(2) 本剤の投与の対象となる患者の糖化ヘモグロビンは、HbA1c(NGSP値)7.0%以上(JDS値6.6%以上)を目安とする。

(3) 不可逆的な器質的変化を伴う糖尿病性末梢神経障害の患者では効果が確立されていない。

(4) 投与中は経過を十分に観察し、12週間投与して効果が認められない場合には、他の適切な治療に切り換えること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

1) 血小板減少 血小板減少があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

2) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全 劇症肝炎、著しいAST(GOT)・ALT(GPT)の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸、肝不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、掻痒、紅斑、水疱等
肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・ γ -GTPの上昇、ビリルビン上昇等
消化器	腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、食欲不振、腹部膨満感、便秘、胸やけ
腎臓	BUN上昇、クレアチニン上昇、尿量減少、頻尿
血液	貧血、白血球減少
その他	倦怠感、めまい、頭痛、こわばり、脱力感、四肢疼痛、胸部不快感、動悸、浮腫、ほてり、しびれ、脱毛、紫斑、CK(CPK)上昇、発熱

注)症状があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

(2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。]

4. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

5. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与により尿は黄褐色又は赤色を呈するため、ビリルビン及びケトン体の尿定性試験に影響することがある。

6. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

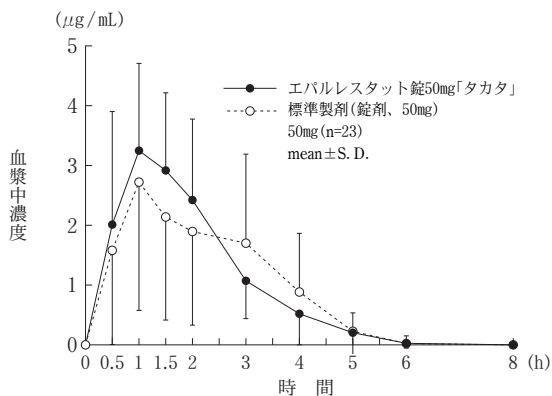
7. その他の注意

本剤の投与により、黄褐色又は赤色の着色尿があらわれることがある。[本剤及び代謝物の影響による。]

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験¹⁾

本剤と標準製剤(錠剤、50mg)をクロスオーバー法により、健康成人男子23名にそれぞれ1錠(エパルレスタットとして50mg)を空腹時に単回経口投与し、投与前、投与後0.5、1、1.5、2、3、4、5、6及び8時間に前腕静脈から採血した。液体クロマトグラフィーにより測定したエパルレスタットの血漿中濃度の推移及びパラメータは次のとおりであり、統計解析にて90%信頼区間を求めた結果、判定パラメータの対数値の平均値の差は $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲にあり、両剤の生物学的同等性が確認された。



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt ($\mu\text{g}\cdot\text{h}/\text{mL}$)	Cmax ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	tmax (h)	t _{1/2} (h)
エパルレスタット錠50mg「タカタ」	7.74±1.96	4.18±1.10	1.5±1.1	0.7±0.3
標準製剤(錠剤、50mg)	7.49±2.60	4.26±1.38	1.7±1.1	0.7±0.2

(mean±S. D.)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

※2. 溶出挙動²⁾

本剤は、日本薬局方医薬品各条に定められたエパルレスタット錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

※【薬効薬理】

エパルレスタットは、グルコースからソルビトールへの変換を司るアルドース還元酵素を阻害して、高血糖によって生ずるソルビトールの細胞内蓄積を抑制する。これにより糖尿病性末梢神経障害に伴う手足のしびれや痛みを改善する。³⁾

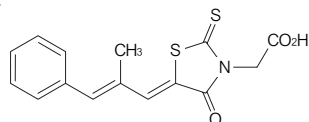
※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：「日局」エパルレスタット

Epalrestat

化学名：2-[(5Z)-5-[(2E)-2-Methyl-3-phenylprop-2-en-1-ylidene]-4-oxo-2-thioxothiazolidin-3-yl]acetic acid

構造式：



分子式：C₁₅H₁₃NO₃S₂

分子量：319.40

性状：黄色～だいたい色の結晶又は結晶性の粉末である。

N,N-ジメチルホルムアミドにやや溶けやすく、メタノール又はエタノール(99.5)に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

光により徐々に退色し、分解する。

結晶多形が認められる。

融点：222～227°C

【取扱い上の注意】

安定性試験⁴⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、36ヵ月)の結果、3年間安定であることが確認された。

【包装】

エパルレスタット錠50mg「タカタ」

PTP包装：100錠(10錠×10)

1000錠(10錠×100)

【主要文献】

- 1) 保田国伸他：医学と薬学，53(4)：447，2005.
- ※2) 高田製薬株式会社資料(溶出性)
- ※3) 第十六改正日本薬局方第一追補解説書(廣川書店)：C-57，2012.
- 4) 高田製薬株式会社資料(安定性)

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

株式会社三和化学研究所 コンタクトセンター
〒461-8631 名古屋市東区東外堀町35番地
TEL 0120-19-8130
FAX (052)950-1305